

# 「科学と工業」投稿規程

(2017年1月改訂)

## 1 投稿資格

投稿原稿の著者（連名の場合は1名以上）は本協会会員でなければならない。ただし、本誌編集委員会が認めたときはこの限りでない。

## 2 著作権

本誌に掲載された記事の著作権は本協会に帰属する。ただし、記事内容に関しては著者が責任を負うものとする。

## 3 投稿原稿

- 3.1 投稿原稿は総合論文、研究論文、ノート、技術論文、総説、解説、講座、会員ひろば、その他とする。
- 3.2 原稿は本投稿規程および別に定めた「原稿の書き方」に従って、所定の書式で作成する。
- 3.3 原稿は和文を原則とするが、総合論文、研究論文、ノート、技術論文は英文でもよい。
- 3.4 投稿原稿は所定の書式で作成し、印刷物またはその電子ファイルを編集委員会事務局（19項を参照）に提出する。図表に関しては電子ファイルを必ず添付する。

## 4 総合論文

- 4.1 総合論文は科学および工業に関する独創的な研究で、価値ある結論あるいは事実を含み、総合的に論述したものとする。
- 4.2 総合論文には英文要旨およびその和訳を添付しなければならない。

## 5 研究論文

- 5.1 研究論文は科学および工業に関する独創的な研究で、新たな価値ある結論あるいは事実を含み、論述したものとする。
- 5.2 研究論文には英文要旨およびその和訳を添付しなければならない。

## 6 ノート

- 6.1 断片的な研究論文であっても、新しい事実や価値あるデータなどを含む場合、ノートとして掲載する。
- 6.2 ノートには英文要旨およびその和訳を添付しなければならない。

## 7 技術論文

- 7.1 技術論文は工業に直結した新しい知見や、企業化または中間工業化など応用面で価値あるデータ、方法等を論述したものとする。
- 7.2 技術論文には英文要旨およびその和訳を添付しなければならない。

## 8 総説、解説

- 8.1 総説は科学および工業に関連する特定の主題や専門分野について、多くの研究報告、資料等に基づいて総括的に記述したものとする。解説は科学および工業に関連する特定の主題や専門分野について、著者の研究結果または調査結果を含めて詳細かつ平易に記述したものとする。
- 8.2 総説、解説には和文要旨を添付しなければならない。
- 8.3 総説、解説の区分は著者の意見を参考にし、編集委員会で決定する。

## 9 講座

- 9.1 講座は特定題目の修得を目的として記述したものとする。
- 9.2 講座には和文要旨を添付することができる。

## 10 会員ひろば

- 10.1 会員ひろばは会員相互の交流を目的として会員企業の技術紹介や情報提供を行うものとする。
- 10.2 会員ひろばには和文要旨を添付しなければならない。

## 11 その他

4項～10項に該当しないが、本協会会員にとって有益な内容を含み、編集委員会が掲載を承認した原稿は、その都度記事区分を決定する。

## 12 投稿原稿の分割掲載

原則として刷り上がりページ数は6ページ以内（ノートは4ページ以内）とする。刷り上がりページ数が6ページを超える記事は2回以上に分けて掲載することがある。

## 13 総合論文、研究論文、ノート、技術論文原稿の受付、審査、訂正、採否

- 13.1 原稿が本協会に到着した日をもって受付日とする。
- 13.2 編集委員会は原稿の内容および採否についての審査を行う。編集委員会は原稿の内容の審査を有識者に委嘱することがある。
- 13.3 編集委員会は審査の結果、原稿の内容について著者に字句等の加除、訂正などの変更を求められることができる。著者は変更を求められた場合は原則として、原稿が返送された日から1カ月以内に改訂・再提出しなければならない。1カ月を過ぎて再提出された原稿は新規投稿とみなし、再提出日をもって受付日とする。
- 13.4 編集委員会は審査の結果に基づき原稿の採否を決定する。編集委員会が掲載可と決定した日を採択日とする。

## 14 総説、解説、講座、会員ひろば、その他原稿の受付と訂正、採否

- 14.1 原稿が本協会に到着した日をもって受付日とする。
- 14.2 原稿の採否は編集委員会で決定する。
- 14.3 原稿について編集委員会は字句等の加除、修正訂正を行い、あるいはこれを著者に求めることができる。

## 15 著者校正

著者校正は1回、原則として初校の時に行う。なおこの際、印刷上の誤り以外の字句等の修正や原稿にない字句等の挿入は認められないことがある。

## 16 別刷

別刷は30部まで無償とし、それ以上の希望部数については実費を徴収する。

## 17 発行後の訂正

発行後2ヶ月以内に著者から訂正の申し出があり、編集委員会が適当と認めた場合、訂正文を掲載する。

## 18 掲載原稿の取扱

原稿は雑誌発行後も返却しないことを原則とするが、返却を希望する場合は原稿の汚れを了承の上あらかじめ文書で申し出る。

## 19 原稿および電子ファイル等の送付先および連絡先

〒536-8553 大阪市城東区森之宮 1-6-50  
(地独)大阪市立工業研究所内  
一般社団法人 大阪工研協会  
Tel. 06-6962-5307 (直通)  
Fax. 06-6963-2414  
E-mail info@osakaira.com

# 「科学と工業」原稿の書き方

(2017年5月改訂)

本誌に投稿される方は、別紙の「投稿規程」をお読みになった後、この「原稿の書き方」に従ってご執筆下さい。

## 1 原稿

原稿は、表紙、要旨・キーワード、本文、図表から構成され、すべてワープロや表作成ソフトなどを用いて作成して下さい。

## 2 表紙

2.1 表紙は当協会ホームページより電子ファイルをダウンロードしてご使用下さい。

<http://osakaira.com/kagaku.html>

2.2 総説、解説、講座、会員ひろば、総合論文、研究論文、ノート、技術論文、その他、の中から希望する区分を選び、題名、著者名、所属機関名などを所定欄に記入して下さい。

2.3 題名は本文の内容を的確に表したものを用いて下さい。

2.4 表紙には和文題名と英文題名を記入して下さい。

## 3 要旨・キーワード

3.1 総合論文、研究論文、ノート、技術論文には英文要旨(200語以内)およびその和訳を作成して下さい。

3.2 総説、解説、会員ひろばには和文要旨(300字以内)を作成して下さい。

3.3 講座、その他に和文要旨を添付する場合は、3.2に従って作成して下さい。

3.4 要旨を添付する場合は、3~6個のキーワードを題名および要旨から抽出し、さらに必要な場合は本文から補充して要旨の原稿に記入して下さい。

## 4 本文

4.1 本文は、1行24字(全角)、1ページ23行を目安に作成して下さい。図表を含めて24枚

以内(刷り上り6ページ)になるようにして下さい(図・表は1個を1枚と数える)。

4.2 原稿にはページ番号を記入して下さい。

4.3 本文には、下記に示すスタイル(ゴシック体の太字)で、各区分の見出し番号を付けて下さい。なお、見出しは1字下げ、文章は次行から書き始めて下さい。

例) 1 緒論

### 2.2 実験装置

#### 3.1.5 メカニズムの解析

4.4 用字

4.4.1 和文は明朝体で、英文はローマン体で記述して下さい。

4.4.2 数字は原則としてアラビア数字を用いますが、漢字とともに物質の名前になっているものや数量的意味の薄いものには漢数字を用いて下さい。

[例] 一酸化炭素、三角形、一般に、一つ二つ

4.4.3 改行したときの最初の行は1字下げして下さい。

4.4.4 句読点には「。」「,」「」を用い、「.」「、」は用いないで下さい。

4.5 用語

4.5.1 学術用語は文部科学省「学術用語集」に基づいて記載して下さい。通常用いられている外国語の術語、物質名などはカタカナで書いて下さい。

文部省、「学術用語集 化学編」、増訂2版、日本化学会編、(南江堂、1986)

[例] イタリック、ベンゼン

4.5.2 物質名はIUPACによる命名法勧告に従って書いて下さい。

[参考] ・G. J. Leigh, H. A. Favre, W. V. Metanomski, "Principles of Chemical Nomenclature: A Guide to IUPAC Recommendations", (1998, Blackwell Science).

- ・日本化学会命名法専門委員会編，“化合物命名法: IUPAC 勧告に準拠”，(2011, 東京化学同人).
- ・高分子学会 高分子命名法委員会編，“高分子の命名法・用語法”，(2007, 講談社).
- ・International Union of Biochemistry and Molecular Biology ウェブサイト，  
“Recommendations on Biochemical & Organic Nomenclature, Symbols & Terminology etc.”  
<http://www.chem.qmul.ac.uk/iubmb/>  
(2016年1月13日現在)

4.5.3 略号は，本文中で最初に使用する箇所の後に，括弧を付けて明示して下さい。

〔例〕核磁気共鳴 (NMR)，グルタミン酸オキサロ酢酸トランスアミナーゼ (GOT)

4.5.4 文章中では物質名は原則として元素記号や化学式で書かないで下さい。

4.5.5 文章中では物質名，略号などは統一して用いて下さい。

#### 4.6 数式，反応式，構造式

4.6.1 数式，反応式には(1), (2), 構造式には[1], [2]のそれぞれの通し番号を付けて下さい。

4.6.2 数式，反応式などは本文中に直接書いて下さい。あるいは，図として取り扱い，本文とは別に作成して下さい。

#### 4.7 引用

4.7.1 本文を引用する場合は，1.2.2 のように見出し番号を明示して下さい。

4.7.2 図，表，数式・反応式，構造式を文章中に引用する場合は，それぞれ，**図 1**，**表 2**，**式 3**，**[4]** のように，ゴシック体の太字で表記して下さい。ただし，総合論文，研究論文，ノートの図表および式を文章中に引用する場合は，**Fig. 1**，**Table 1**，**Eq. 1** のように英字で表記して下さい。

4.7.3 文献を引用する場合は，当該箇所の右肩あるいは句読点の前に<sup>1,2)</sup> (2編)，<sup>4~6,8,9)</sup>

(3編以上) のように通し番号を付け，引用文献は本文の最後に「文献」としてまとめて番号順に記載して下さい。

4.7.4 見出しに文献番号を付けることはできる限り避けて下さい。

4.7.5 文献著者名を文章中に引用する場合には所属や敬称を付けないで下さい。

4.7.6 注記は，当該箇所の後に (注 1)，(注 2) のように通し番号を付け，注記事項は文献の直前に「注」としてまとめて番号順に記載して下さい。脚注は使用しないで下さい。

4.7.7 他の刊行物からの引用 (図表を一部改変する場合を含む) にあたっては，その範囲と出典を示して下さい。著作権法に定める引用の範囲を超えるなど，必要な場合には著作権者の許諾を得て下さい。

### 5 総合論文，研究論文，ノート

5.1 研究論文の本文はなるべく「緒言，理論，実験，結果，考察，結論，文献」の順に書いて下さい。これらの項目は適宜統合してもかまいません。

5.2 総合論文，ノートの本文は上記の形式にとらわれず，ノートは簡潔に書いて下さい。

5.3 英単語のつづりは原則として米国式に従って下さい。

5.4 総合論文，研究論文およびノートの図，表はすべて英文で作成して下さい。

### 6 技術論文

本文の書き方は研究論文に準じ，図，表は原則として和文で作成して下さい。

### 7 総説，解説，講座，会員ひろば，その他

本協会会員の専門分野は多方面にわたっていますので，総説，解説，講座，会員ひろば，その他の内容は当該専門分野以外の会員にも理解しやすいように，できる限り平易に書いて下さい。図，表の題名，説明や字句なども和文で書いて下

さい。

## 8 数, 数式

8.1 文章中の数式は  $dh/dt$  のように1行に書いて下さい。

ただし、分数などを1行で表記するとわかりにくくなる場合は、下記文例のように文章を改行し、数式は文章とは別扱いとして下さい。

[例]

変位  $h$  から得られる速度( $=1/h(dh/dt)$ )と先端部に作用するひずみ速度( $\dot{\varepsilon}$ )は異なり、シミュレーションなどを用いた研究により、

$$\dot{\varepsilon} = B \left( \frac{1}{h} \right) \frac{dh}{dt} \quad (2)$$

が提案された。

8.2 範囲の表示は  $1.0\sim 2.5$ ,  $20\pm 1$  のように書いて下さい。

8.3 上付きや下付きの添字が二重になるような表記は用いないで下さい。例えば、 $e^{-\Delta G^\ddagger/RT}$ ,  $E_{H_2}$ ,  $a_{H^+}$  とは表記せず、 $\exp(-\Delta G^\ddagger/RT)$ ,  $E(H_2)$ ,  $a(H^+)$  のように表記して下さい。

## 9 単位, 量記号, 符号

9.1 単位は原則としてSI単位系を使用して下さい。

9.2 時間の単位記号を文章中で単独で用いるときは、年、月、日、時間、分、秒の漢字を使用して下さい。また、図、表中で用いるときはそれぞれ  $y$ ,  $m$ ,  $d$ ,  $h$ ,  $min$ ,  $s$  を使用して下さい。

9.3 容量の単位リットルは「L」と書いて下さい。

9.4 単位の積および商は例のように表し、数字と単位の間は半角空けて下さい。

[例]  $2\text{ N}\cdot\text{m}$ ,  $5\text{ m/s}$ ,  $10\text{ m}\cdot\text{s}^{-1}$

9.5 量記号, 符号は国際的に慣用されているものを使用して下さい。詳細は JIS Z8202, JIS Z8000, および JIS Z8201 を参照して下さい。

9.6 量記号はイタリック体で表記して下さい。ただし、添え字はイタリック体にしないで下さい。

9.7 複数の定義が慣用されている量記号は、その

定義を明示して下さい。例えば、 $R$ は気体定数あるいは電気抵抗、 $m$ は質量あるいは磁気モーメント、などその定義を明示して下さい。

9.8 区切り符号は、コロン(:), セミコロン(;), コンマ(,)の順に大きな区切りとして用いて下さい。

[例] 実験条件: 温度,  $250^\circ\text{C}$ ; 圧力,  $2030\text{ hPa}$ ; 時間,  $5\text{ h}$ 。

## 10 文献

10.1 同一番号における文献の数は、原則として一編にして下さい。

10.2 文字は原則として漢字, かな, 数字, ローマ字などを使用して下さい。ロシア文字など特殊な文字はローマ字に書き直して下さい。

10.3 著者名は文献番号毎に全員記載し、「他」, 「*et al.*」などを用いて省略しないで下さい。連続した文献番号で同一の著者名の文献を引用する場合も、著者名は繰り返して記載し、「同上」, 「*idem.*」, 「*id.*」などと略記しないで下さい。また、英文で表記する場合は、複数の著者名の間「and」を記載しないで下さい。

10.4 和文の雑誌名は省略せずに記載して下さい。外国語の雑誌名は一般的な省略名を記載して下さい。

10.5 インターネット上のウェブサイト (URL) は文献として引用することはできるだけ避けて下さい。

### 10.6 文献書式

#### 10.6.1 雑誌

文献番号, 著者名, 雑誌名, 巻数, 通巻ページ数 (発行西暦年)。

[例]

- 1) 小林靖之, 池田慎吾, 藤原 裕, 表面技術, **63**, 779 (2012)。
- 2) Y. Fujiwara, Y. Kobayashi, N. Higuchi, Y. Hoshiyama, H. Miyake, *Electrochim. Acta*, **89**, 623 (2013)。  
巻数の代用に発行西暦年を用いている場合
- 3) T. Iwai, T. Nakai, M. Mihara, T. Ito, T.

Mizuno, T. Ohno, *Synlett*, 1093 (2009).  
巻数がない場合

4) 福原知子, 安部郁夫, 宗宮 功, 炭素,  
No.199, 155 (2001).

通巻ページ数がない場合

5) 小林靖之, 藤原 裕, *ファインケミカル*, **38**(9), 27 (2009).

#### 10.6.2 国際会議 Proceedings, 学会要旨集

文献番号, 著者名または編集者名, 名称,  
p.引用ページ数 (発行西暦年, 国際会議  
の場合は開催都市).

[例]

6) 懸橋理枝, 東海直治, 山村伸吾, 第  
64回コロイドおよび界面化学討論会  
講演要旨集, p.72 (2013).

7) Y. Fujiwara, Y. Kobayashi, S. Ikeda,  
Proc. International Conference on  
Electronics Packaging 2013 (ICEP  
2013), p.629 (2013, Osaka).

#### 10.6.3 単行本

文献番号, 著者名または編集者名, “書  
籍名”, 改訂版数, 巻数, p.引用ページ  
数 (発行西暦年, 出版社, 外国の出版社  
の場合は所在都市).

[例]

著者と編者あり, 版数もあり

8) 山村伸吾, “油化学便覧—脂質・界面  
活性剤—”, 第4版, 日本油化学会編,  
p.467 (2001, 丸善).

著者なし, 編者のみ

9) 日本化学会編, “化学便覧基礎編”,  
改訂5版, p.1624 (2004, 丸善).

翻訳書

10) R. R. Bird, R. C. Armstrong, O.  
Hassager 著, 奥 博正訳, 小山清人監  
修, “高分子の流動ダイナミクス 第  
1巻 流体力学的アプローチ”, 初版,  
p.276 (1999, プラメディア).

外国語の書籍, 著者・編者・巻数等あり

11) G. A. Serad, “Encyclopedia of Polymer  
Science and Engineering”, 2nd, Vol. 3,

H. F. Mark, N. M. Bikales (ed.), p.174  
(1985, John Wiley and Sons, New  
York).

#### 10.6.4 特許

文献番号, 特許文献種別, 番号, (必要  
な場合 発行西暦年).

[例]

12) 特許第 4955992 号 (2012).

13) 特開平 11-256390.

14) 特開 2011-214074.

15) WO2009/041665

16) U. S. Pat., 7763692 (2010).

#### 10.6.5 規格

文献番号, 規格種別, 分類番号 (発行西  
暦年).

[例]

17) JIS Z 8201 (1981).

## 11 表

11.1 表は一つでも番号を付けて下さい。また,  
原則として白地にして下さい。

11.2 表の標題は表の上部に和文で書いて下さい。  
ただし, 総合論文, 研究論文, ノートでは  
英文で書き, 標題の最初の文字だけを大文  
字にし, 最後にはピリオドを付けなくて下  
さい。

11.3 表中の用語, 記号は本文と同じものを用い  
て下さい。総合論文, 研究論文, ノートは  
すべて英文で, その他のものは和文で書い  
て下さい。

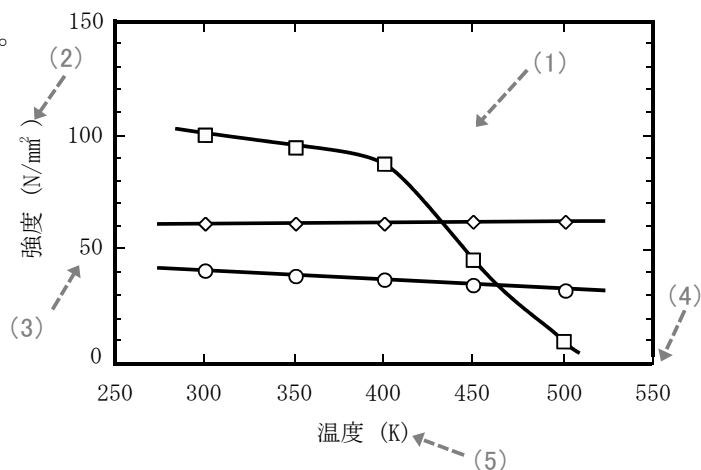
11.4 表の左右両端の縦罫線, および左上部の斜  
線は用いないで下さい。

11.5 他の刊行物からの引用の場合は, 文献番号  
を表の標題の右肩に記入するか, または,  
必要に応じて出典の明示・改変・引用許諾  
などを表中に記入して下さい。

## 12 図

12.1 図は一つでも番号を付けて下さい。なお,  
写真は原則として図として扱います。また,  
原則として白地にして下さい。

- 12.2 図の標題は図の下部に和文で書いて下さい。ただし、総合論文、研究論文、ノートでは英文で書き、標題の最初の文字だけを大文字にし、最後にはピリオドを付けて下さい。
- 12.3 図中の用語、記号は本文と同じものを用いて下さい。総合論文、研究論文、ノートはすべて英文で、その他のものは和文で書いて下さい。
- 12.4 図の説明文はできるだけ簡潔に記述して下さい。
- 12.5 和文は明朝体で、英文はローマン体で記述して下さい。フォントは編集委員会で修正することがあります。
- 12.6 図原稿はそのまま縮小して使用できるように明瞭に作成して下さい。なお、不鮮明な図は編集委員会より著者に修正を求めることがあります。
- 12.7 他の刊行物からの引用の場合は、文献番号を図の標題の右肩に記入するか、または、必要に応じて出典の明示・改変・引用許諾などを図中に記入して下さい。
- 12.8 下記、**図1**の注意書きを参考にして作成して下さい。
- 12.9 図は縦・横軸の変数も合わせてA4判白地用紙枠内におさめて下さい。
- 12.10 図はできるだけグレースケールにして下さい。カラーの図をご提出いただいても、グレースケールとなる場合があります。



**図1** 温度にともなう強度の変化

○—, 材料 A; □—, 材料 B; ◇—, 材料 C

- (1) グラフ等の内部は原則として白地にして下さい。
- (2) 縦軸の変数は軸方向に書いて下さい。
- (3) 目盛の数字は横書きにして下さい。
- (4) 縦・横軸には矢印を付けないで下さい。
- (5) 縦・横軸の変数の単位は( )を付けて書いて下さい。また、変数名との間には適当なスペースを入れて下さい。
- (6) 凡例(記号)は図中に記述せず、図の標題の下に記述して下さい。その際に、凡例の後ろにはカンマ(,)を入れ、各凡例の間はセミコロン(;)で区切って下さい。
- (7) 全図において、形式を統一するようにして下さい。